実践報告

留学生の振袖と民族衣装による国際交流：『徳川家康＆服部半蔵 in 三重大学』

福　岡　昌　子

International exchange through international students modelling long-sleeved kimonos and national costumes：“Tokugawa Ieyasu ＆ Hattori Hanzo at Mie University”

FUKUOKA Masako

〈Abstract〉

On Saturday, May 20, 2023, “Tokugawa Ieyasu and Hattori Hanzo at Mie University” was held in Mie University’s Sansui Hall, sponsored by the general incorporated foundation “YAMATO Innovation” and Mie University Faculty of Humanities’ Japanese Medieval History Laboratory. In addition, the International Ninja Research Center joined as co-sponsors along with Mie University Center for International Education & Research.

Ten international students participated in the third part, “Kimono and Folk Costume Fashion Show.” It was a rare opportunity for international students to wear the Furisode or traditional costumes from their home countries, so it was a valuable event.

The participating students were able to walk proudly across the stage in our university’s auditorium while their country’s national anthem was sung and introduce themselves in Japanese. Many student emailed information about this events to their home countries, which seems to have served as ad advertisement for our university.

We would like to continue to support international students who come to our university to study Japanese, admire Japanese culture, and become a bridge between Japan and their home countries, so that they can have fulfilling lives as international students.

キーワード：留学生、着物（振袖）、国際交流イベント、徳川家康＆服部半蔵 in 三重大学

1．はじめに

2023 年 5 月 20 日（土）三重大学三翠ホールにて一般財団法人日本武芸道国際交流協会(注 1)（2023 年 6 月大和イノベーションへ法人名称変更）主催による「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」が開催された。共催として三重大学人文学部中世史研究室や国際忍者研究センター、協賛として三重大学国際交流センターが加わった。主テーマは、平和な国づ

くりを成し遂げた徳川家康と徳川家康を支えた服部半蔵の忍者学に学ぶ」であった。

午前には三重大学人文学部教授の山田雄司先生の「忍びの思想」の講演、池田昭代氏による徳川家康母の語り部、忍者パフォーマンスがあった。午後には、教育学部教授の藤田達夫先生、人文学部教授の吉丸雄哉先生、人文学部准教授の高尾善希先生による「シンポジウム：三重大学国際忍者研究センター“徳川家康と忍者”」が開催された。

本イベントの第 3 部には「着物と民族衣装のファッションショー」があり、三重大学で学ぶ留学生 8 名も参加した。留学生がこのようなイベントに振袖を着て参加できる機会はめったになく、貴重なイベントであったため、実践報告として残したいと思う。本稿では、「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」における第 3 部の留学生による「着物と民族衣装のファッションショー」を中心に報告する。

2．事業の背景

2．1　日本の武芸道から国際交流の発展

主催者である一般財団法人「日本武芸道国際交流協会」は、2016 年より社会の発展と国際親善を促進させ、芸術・文化・スポーツ分野における普及振興及び国際交流を目的に、コンサート・舞台芸術・講演会の各種イベントの開催や助成活動等を行っている。設立の目的は、①日本の和合する精神文化の実現を目指した和文化の普及活動、②相撲や柔道、空手、剣道等の日本のスポーツを通して日本の文化を伝えること、③東洋・西洋の芸術の普及・振興を進めることによる寛容で柔軟な精神性を育成することの 3 点である。

2．2　忍者発祥の地からの発信

三重県は、2.1 の日本の和合する精神文化の実現を目指した和文化の普及活動を行う場として最適な地である。三重県の伊賀市は忍者発祥の地だからである。三重大学には伊賀の地域創生に資することを目的として設立された国際忍者研究センターがある。この機関は伊賀地域を中心として忍者に関する教育研究を推進し、その成果を広く国内外に発信する国際的な忍者研究の拠点となっている。忍者や忍者の史資料に関するデータベースの構築や、忍術書の内容を科学的に実験検証するなどの調査・研究活動が行われている。

2．3　留学生を通して着物文化の魅力を世界へ

「日本武芸道国際交流協会」は、親善活動のイベントの際には留学生に振袖を着てもらい、日本の伝統文化を世界へ発信する活動を積極的に行ってきた。これまで開催したイベントでも多くの国籍が異なる留学生が華やかに振袖を着て参加している。本学の留学生も振袖を着させていただけるという機会が得られるということだけでも、留学生には素晴らしい体験となる。そこで、国際交流センターも協賛として開催に協力をさせていただくことにした。

図１．2023 年 5 月 20 日の「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」ポスター

３．留学生の参加者募集と開催日までの経緯

①2023 年 3 月参加募集開始

2023 年 5 月 20 日「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」の第 3 部「着物と民族衣装のファッションショー」に、着物（振袖）および民族衣装を着て出演する留学生（自分の民族衣装を持っている方限定）の募集を図った。

②2023 年 4 月出演者決定

a．振袖グループ：ドイツ 2 名、フランス 1 名、ベトナム 1 名、パプアニューギニア 1 名、タイ 1 名、台湾 1 名、日本人学生 1 名。合計 8 名女性（パプアニューギニア留学生当日辞退）

b．民族衣装グループ：中国 1 名女性、東ティモール 1 名女性、バングラディシュ 1 名男性、タイ 1 名男性、合計 2 名（男子留学生 2 名辞退）

③2023 年 4 月着付け担当者の依頼。

④2023 年 4 月 27 日参加学生への事前説明会（当日スケジュール）。

⑤2023 年 4 月下旬：舞台照明操作業者、弁当業者、舞台花業者の手配協力。

⑥当日は、声楽歌の進藤昌子氏による出演者の国歌が披露された後、留学生の自己紹介ス

ピーチがあった。東ティモールと中国の漢民族の衣装は、留学時に持参したものであった。

4．参加学生の事前アンケート

参加学生の応募条件に、①渡日後の日本という国への感想、②忍者への質問（もし皆さんがタイムスリップして、戦国時代へ行って、忍者の服部半蔵に会えたとしたら、どんなことを忍者に質問したいですか？）を応募用紙に書いてもらい、選考の資料とした。

4．1　事前アンケート(注2)

(1) 渡日して以降、日本という国への感想は？

- 生活が便利です。日本人は優しくて、親切です（ドイツ）。
- 日本は非常に発展していて近代的ですが、伝統文化も忘れていない国だと思います（フランス）。
- 日本の良いところと言えば、3 点あります。1 点目は優しさです。日本人は優しい国民だと思います。日本へ来たばかりのときに、ホテルへ戻る道がわからなくなってしまいました。そのとき、一人のおばあさんが、熱心に手伝ってくれました。これは日本の第一番の印象になりました。その後も、学校や宿舎でも困難なことがあれば、周りの人がいつも手伝ってくれました。2 点目は、どこにもゴミが落ちていないきれいな国であることです。3 点目は日本には四季があり四季折々の景色が見ることができる点です。将来また日本へ来たいです（ベトナム）。
- 私は安全な国だと感じました。また、人々は何事にも非常に責任感を持っています。
  私は日本文化や食べ物が大好きで、さまざまな季節を楽しむことができ、美しい国だと思います（パプアニューギニア）。
- 日本人たちは優しいです。また、日本では景色もいいし空気もいいし色々な美しい観光地が多いです（タイ）。
- 日本は安全なので、たくさんの場所に行くことができ、日本に滞在できて幸せです。日本人は廃棄物の管理が上手なので、環境がよく、日本食も美味しいです（東ティモール）。
- 文化が面白く、都市のインフラが完備されている国です。日本人は親切で、外国人に対する包容性も素晴らしいと思います（中国）。

(2) 忍者への質問「もし皆さんがタイムスリップして、戦国時代へ行って忍者の服部半蔵に会えたとしたら、どんなことを忍者に質問したいですか？」

- 忍者としての生活や修行で一番大変だったことは何ですか（ドイツ）。

- 忍者が携帯する食料はどんなものだったのですか（ドイツ）。
- 忍者は将来も存在すると思いますか（フランス）。
- どうして忍者になりたいと思いましたか？（タイ）（バングラディシュ）。
- 変装して情報を得る仕事は難しいですか？（タイ）。
- 女性が忍者になりたいと思ったら、どのような修行が必要ですか（東ティモール）。
- 忍者以外に生きる道があっても、忍者になることを選びますか？（中国）。

4．2　事後アンケート「参加・出演した感想」

- 振袖を着させてもらうこととても楽しみにしていました。友達と一緒に着物に合わせてメークしたり、写真を取ったり、歩く練習も一緒にして、とてもいい思い出になりました。とても綺麗なお嬢さんになった感じがしました。選んだ振袖衣装は黒色の振袖に赤い襟と金色の帯、いつのまにか服装はドイツの国旗になって少し笑いました。また、この着物でステージに立ってドイツの国歌を聞くことができて、とても感動しました。少しホームシックにもなりました。（ドイツ、振袖グループ）
- 振袖を着るにはもう年齢的に無理があるのですが、それでも着ることができたのはとても光栄なことです。着付けに時間がかかりましたが、素敵な女性たちが私に似合うように最善を尽くしてくれたので、とても感謝しています。息苦しかったし、靴も少し違和感があったけど、気にならないくらい自分で自分が可愛いと思いました。また、私は日本の文化が大好きで、数時間その一部になれたことをうれしく思っています。帯が特に綺麗だったと思います。とても優雅な気分になりました。高価な振袖だったので少し心配しました。主催団体や先生に感謝します。（ドイツ、振袖グループ）
- 私にとって振袖を着られたことは人生で素晴らしい体験だったと思います。深い文化は着方の複雑さに代表されると思います。昔の日本人の女性が伝統を守ってきたからだと思います。写真も本当にきれいで、友達と家族に共有します。素晴らしい機会を与えてくれた主催団体と先生に感謝します。（ベトナム・振袖グループ）
- 本当に楽しかったです。着物を着たことがあったけど、振袖は初めてでした。友達と一緒に舞台に上がって自分の国や自己紹介もできて、幸せだと思いました！また、振袖を着ている時は、非常に暑かったです。特に、写真を撮っている時が大変でした。でも、綺麗な写真が出来上がるように、また、ショーが成功するように、みんな頑張りました。最後に、スタッフと先生には本当に感謝しています！（台湾、振袖グループ）
- 交換留学向けの活動を行なっていただき、本当にありがとうございました。振袖を着させていただいて、いい体験ができました。今回イベントのおかげで振袖の存在を知りました。振袖は綺麗だし魅力ある民族衣装だと思います。さらに、長い間聞いてい

図 2．「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」で振袖を着た留学生たち

なかったタイ国家も歌っていただき嬉しかったです。このようなイベントを続けていってほしいです。いいチャンスをいただいて誠にありがとうございました。（タイ、振袖グループ）

- 「徳川家康＆服部半蔵 in 三重大学」のイベントに参加できて、非常に幸いでした。私の国の伝統的な服装（漢民族の女性貴族の衣装）を皆さんに見せる機会ができて嬉しいです。しかも、多くの美しい着物を鑑賞でき、忍者について多くの知識を知りました。今回のイベントでたくさんの収穫を得ることができました。（中国、民族衣装グループ）

5．三重大学写真部と国際交流センターがコラボした写真展の開催

本イベントが開催されるにあたって、三重大学写真部の協力を得て、当日講演会や忍者ショーや留学生の振袖ショーの写真の撮影を行って、多くの写真を撮影することができた。

図 3. 国際交流センターと三重大学写真部がコラボした写真展

図 4.「第二回和っするフェスタ」主催団体関係者と留学生

そこで、後日国際交流センターと三重大学写真部がコラボした写真展（2023 年 6 月 15 日（木）～6 月 29 日（木）於：総合研究棟Ⅱ1 階）を開催することになった。9 枚の大型パネルに開催風景の写真および第 3 部に参加した留学生の感想を展示した。2 週間という短い間であったが、多くの学生職員が来場した。三重大学の写真部の学生も、このような三重大学のイベントに参加したり、学内の一つの機関と協同で行ったりした写真展は初めてで、いい体験ができたと述べていた。展示した写真は 2023 年 8 月に帰国する留学生への留学記念のお土産となった。

6．主催者等からのコメント

・一般財団法人日本武芸道国際交流協会 高橋玉樹代表理事

本イベントの第 1 部の山田雄司先生の忍びの思想を学んでみると、「人のためや主（あるじ）のために耐え忍ぶ心の大切さ」など、今の日本に欠けた哲学があると思い、その哲学の普及の一環としてこれらのイベントを開催させてきました。毎回主催するイベントの第 3 部には、いつも留学生に限らず日本で働く外国の方々に振袖などの着物を着てもらって、日本の和文化や日本の精神を体験してもらっています。今回も留学生たちが日本でたくさんの思い出を作り、故郷に帰ってからも日本や日本文化についてご家族や友人にお話してもらえることを、嬉しく思います。

・三重大学人文学部教授 山田雄司先生

シンポジウム「徳川家康と忍者」に引き続き開催された、留学生の振袖と民族衣装の披露はとても華やかなものとなった。それぞれの出身国の国歌が新藤晶子氏によって披露されると、留学生は国家代表として舞台に立っているようで、とても誇らしげに見えた。振り袖や民族衣装を着ること、そして舞台に立つことはなかなかない機会であり、留学生にとっては三重大学に留学した貴重な思い出になったのではないかと思う。

・三重大学写真部部長 石川雅英

開催当日は写真部の元部長ら 2 名が終日開催イベントの舞台の写真撮影を行った。留学生の表情がうまく撮れるように、振袖に着替える前と振袖に着替えた後の留学生を撮影した。国際交流センターより本イベントについて共同で写真展を開催することになり、写真部が全員でパネル作成や展示作業を行った。振袖を着た留学生が本当に嬉しそうだった。また、私たちが作成したパネルも喜んでもらってくれて、こちらも嬉しかった。このような共同写真展の経験がなく、機会があったらまたやってみたい。

・着付け担当「美容屋 BASARA」

成人式等で日本人に振袖を着せているときと同じように、どの留学生達も表情がイキ

イキと輝き、美しく変身していきました。主催団体から用意された振袖がどれも品質がよい高価な振袖ばかりだったので、着付けがしやすかったです。このような外国の方々に振袖の着付けをさせていただく機会を得て、こちらも楽しくイベントに参加することができました。

7．考察

留学生は日本語の勉強だけではなく、様々な日本文化にも関心が持っている。特に着物に関する日本の伝統文化に対しても憧れを抱いているようだ。京都の観光地でも着物をレンタルし、着て歩く外国の老若男女の方々が年々増える一方であり、このようなことからも日本文化への関心の高さがうかがえる。

コロナ禍が収束し、留学生数がようやくコロナ禍前に回復する状況の中で、外部の主催団体による「徳川家康と服部半蔵 in 三重大学」が本学で開催されたことは、本学にとっては嬉しいことである。留学生が振袖を着るという貴重な機会を提供してくださった一般財団法人日本武芸道国際交流協会には感謝に堪えない。

振袖や民族衣装を着て参加した留学生は、自国の国歌が歌われる中で本学の講堂の舞台を堂々と歩き、日本語で自己紹介をすることができた。舞台裏では感激し涙する学生もいた。自国にメールで発信する学生もいて、本学のいい宣伝にもなったのではないだろうか。

ところで、今回のイベントを通して気づいたことがあった。今回参加した学生は、国際交流センターで日本語を学ぶ留学生がほとんどであったが、日本語が全く話せないという留学生がいることがわかったことだ。国費留学生として本学に留学生している学生がそうだったので、一層驚いた。以前は日本語研修コースが 2 コース用意され、国費留学生の多くはこのコースに入り、1 週間に 90 分 13 コマの時間を使って日本語を勉強した。研究室での実験が忙しくても、日本語を集中して学習していた。そのためか、英語で学位論文を書き帰国した学生も、来日する機会を得た際には日本語でしっかり挨拶し通訳もこなしていた。現在彼らは三重大学のアンバサダー研究員にもなっている。しかし、10 年前に初級コースが経費節減という理由でこの 2 コースが廃止されてしまったので、なかなか日本語中級レベルへと進級できないでいる留学生が多い。非常に残念なことである。今回参加できた留学生はほとんどが協定校からの交換留学生で、日本語が中級レベル以上だった。今後は初級レベルの学生もこのようなイベントに気軽に参加してもらえるように、日本語の指導を充実させていきたい。

将来の国際国際教育交流を考えたとき、これからも日本文化の発信という視点が必要だ。日本が高度成長期の発展の時期に、日本のアニメ産業の発展があり、日本語や日本文化の

学習が世界に広まるチャンスとなっていった。今後は何が日本、日本語、日本文化のファンを増やすきっかけとなるだろうか。その点で、一般財団法人日本武芸道国際交流協会の①日本の和合する精神文化の実現を目指した和文化の普及活動、②相撲や柔道、空手、剣道等の日本のスポーツを通して日本の文化を伝えること、③東洋・西洋の芸術の普及・振興を進めることによる寛容で柔軟な精神性を育成する、の 3 点を柱とする主催団体の趣旨は、貴重なものであると思われる。

今後も留学生たちは日本語を学び日本文化に憧れを抱いて日本に留学してくる。そんな留学生たちは日本での生活や人々との交流を通じて、若い異文化の視点で価値観や人生観を育んでいくことであろう。彼らは日本と母国との懸け橋を担う貴重な存在となっていくはずである。これからも、そんな留学生が充実した留学生活が送れるよう国際交流センターでも引き続き応援していきたい。

注

1）一般財団法人「日本武芸道国際交流協会」（一般財団法人大和イノベーション）のホームページ参照。

2）留学生へ事前アンケートにおける質問（①日本という国の感想、②忍者への質問）は、第 3 部の留学生による「着物と民族衣装のファッションショー」において各留学生に質問する予定であったが、当日のスケジュールの関係上割愛された。

参考文献

1. 一般財団法人「日本武芸道国際交流協会」（一般財団法人 大和イノベーション）（2023）http://www.yamatonokokoro-f.jp/category/info/（2023 年 11 月 20 日現在）
2. 太田浩（2020）「留学生政策と人材育成の国家的課題－留学生 30 万人計画から次の段階へ－」『政策オピニョン』No.154、一般社団法人平和政策研究所、1－6.
3. 太田浩（2021）「高等教育国際化の未来－ポストコロナの国際教育交流を考える－」『高等教育研究』第 24 集、一橋大学、111－130.
4. 鄭惠先・永岡悦子（2022）「外国人留学生の「異文化間能力」に対する意識の形成プロセス：質的分析を通して見える社会・文化的な相互作用」『日本語・国際教育研究紀要』25、1－24.